

脱原発の叫び、青森で 全自交東北の仲間も共に行動

2011年6月4日

「4・9反核による実態調査、事情聴取を実行する」と確約をしました。反核燃の日」全国集会（青森県反核実行委員会など主催）が6月4日、青森市の青い森公園で開かれ、全自交青森地連をはじめ、東北地連の仲間も参加し、共に行動しました。この集会は、毎年4月9日に開催されていますが、3月11日の東日本大震災により、一旦は中止となりました。しかし、深刻な事態を招いた東京電力・福島第1原発事故を受け、この日に開催することとなり、全国各地から1,300人を超える参加者が使用済み核燃料再処理工場（青森県六ヶ所村）の本格稼働中止や脱原発を訴えました。



実行委の渡辺英彦委員長らは「核と人類は共存できない。原発のない日本をつくるべきだ」と強調。

福島県平和運動フォーラムの竹中柳一代表は「福島県民は震災以来、原発で何が起きているのかも知らされぬまま、放射性物質を浴び続けてきた。重荷を背負った福島から脱原発を叫び続けたい」と決意を述べました。

集会の最後に江良實青森県平和労組会議議長（全自交東北地連委員長）による音頭で団結ガンバローを三唱し、青森市内のデモ行進に出発しました。

青森県六ヶ所村の再処理工場周辺でも、ここ数年間で放射能汚染が進んでいる実態にあり、海水汚染も三陸海岸に拡散されています。

デモ行進の参加者は青森市中心部をデモ行進し、「放射能から子どもたちを守れ」「青森を核のゴミ捨て場にするな」「脱原発」などのシュプレヒコールを上げ、市民に訴えました。